



2024年2月29日

各位

会社名 虹技株式会社  
代表者名 代表取締役社長 山本 幹雄  
(コード 5603 東証スタンダード市場)  
問合せ先責任者 常務取締役総務担当 谷岡 宗  
(TEL 079-236-3221)

### 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2024年2月29日の取締役会において、持続的成長と中長期的な企業価値向上を図るため、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を下記の通り決議いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

##### 1. 現状評価

当社グループは、売上高、経常利益のほか、自己資本利益率（ROE）及び自己資本比率等を、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標として用いております。

当社グループは、2022年度を初年度とする第7次3カ年計画に基づき、『C&Eへのこだわり』をキーワードに、①脱炭素社会に向けて、②DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進、③人材育成、の3点を重点課題に設定し、より強固な経営基盤の構築と成長戦略の具現化に努めております。昨今の原材料高騰への対応としては、製品の販売価格は是正による収益の確保並びにコスト改善諸施策の一層の推進に努めました。2021年4月には、国内鋳物事業市場の成熟化に対処するため、従来の鋳物事業に加えて、環境関連事業を事業のもう一つの柱とするべく、送風機などを扱う機械事業部と都市ごみ焼却プラント建設を担う環境装置事業部を統合し、環境エンジニアリング事業部を立ち上げ、グループの呼称を「虹技C&Eグループ」に改めました。

しかしながらROEは低位に留まり、株価純資産倍率（PBR）は過去5年間において1倍を下回る数値で推移していることから、当社株価は割安な水準にあり、改善が必要なものと認識しております。

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高（百万円）	24,013	21,259	18,068	23,117	26,726
経常利益（百万円）	1,300	372	383	89	716
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	734	102	285	43	466
純資産額（百万円）	12,955	12,466	13,254	13,783	15,036
R O E (%)	7.16	0.99	2.73	0.39	4.08
P B R (倍)	0.44	0.33	0.37	0.29	0.29
期末株価（円）	1,380	995	1,214	981	1,039
1株当たり当期純利益（円）	221.52	30.79	86.18	13.20	142.34
1株当たり純資産額（円）	3,139.89	3,047.91	3,257.60	3,329.99	3,614.14
1株当たり配当額（円）	50.00	50.00	20.00	10.00	35.00
自己資本比率（%）	36.4	37.8	38.8	35.3	36.4

## 2. 改善に向けた取り組み

当社グループは資本コストと株価を意識した経営に注力し持続的な成長と収益性の向上に取り組むことが肝要であると認識しております。具体的な取り組みは次の通りです。

### ① 事業成長と収益性の向上

ROE 8% を目標に標記課題に取り組めます。具体的な事業活動としましては、2024 年 1 月 9 日に我が国有数のアルミニウム合金鋳造専門メーカーである(株)小口合金鋳造所を子会社化し傘下に収めました。これによりアルミニウム合金を素材とする鋳造品製造の領域に新規参画することとなり、更なる事業成長と収益性の向上を目指します。詳細は、2024 年 1 月 9 日に公表いたしました「株式会社小口合金鋳造所の株式の取得（子会社化）に関するお知らせ」([https://www.kogi.co.jp/assets/pdf/ir\\_other\\_2024\\_04.pdf](https://www.kogi.co.jp/assets/pdf/ir_other_2024_04.pdf))をご参照ください。

### ② 株主還元の実現

当社グループは、企業の継続的発展と企業価値の向上を図るため必要な内部留保を確保しつつ安定的な配当を継続していくことを基本方針としております。配当金支払の目安として配当の原資となる当期純利益(単体)を基準として配当性向 30% を目標としております。今後も業績向上等を通じ、増配に向けた努力を継続してまいります。

### ③ ESG 経営の推進

政府が宣言した 2050 年のカーボンニュートラル実現に向け、当社グループは事業活動を通じて課題の解決に取り組んでまいります。具体的には、鋳物事業では、生産工程で排出される CO2 の削減や循環素材であるスクラップ比率を高める努力を継続してまいります。環境関連事業では、高効率なごみ焼却プラントや工場の環境負荷低減に資する機械の開発・製造に取り組み、環境事業の拡大を図ってまいります。

以上